



1



3



2



1 本丸跡の館山公園入口。土塁や空堀の跡に囲まれた高低差のある散策路を歩けば山城の造りが体で感じられる

2 本丸南側の深さ4メートルほどの空堀

3 二の丸南側には水堀の一部が残されている

奥州遺産

—ときを越え
受け継がれるもの—

第96回

岩谷堂城跡

江刺岩谷堂字館下Ⅱ

岩谷堂城は館山丘陵に造られた中世から近世にかけての山城である。

本丸のあった場所は、現在、館山公園として整備されており、土塁や空堀の跡を見ることが出来る。二の丸は旧岩谷堂高等学校の運動場として使われ、その南側には水堀や枡形（門の防御施設）の一部が残されている。

発掘調査の結果から、築城年代は中世までさかのぼることが分かっており、葛西氏の家臣である江刺氏によって築城されたと考えられている。

江戸時代には伊達氏の支配下に置かれ、伊達氏の家臣、岩谷堂伊達氏の居館として機能し、岩谷堂要害屋敷と呼ばれた。この頃には本丸はほとんど使われず、主な建物は二の丸にあったことが絵図から分かっている。

春には桜、初夏にはアジサイ、秋には紅葉と四季折々の表情を見せる岩谷堂城跡は、歴史だけではなく、自然も楽しむことができる場所である。

広告

●広告の問い合わせは、(株)東広社 (☎ 0197 64 1523)